

## 授業で使える図書館所蔵地図

No. 14 『文政改正御江戸大絵図』  
作成年：1829年（文政12年）  
サイズ：87×105（cm）  
作者 須原屋茂兵衛（蔵板）



### 【解説】

中山道が始まる江戸を描いた江戸図である。中山道の起点は東海道と同じ日本橋で、ここから東海道六十九次（草津と大津を含む）が始まり、江戸時代には、中山道や東海道、甲州道中、奥州道中、日光道中を加えた五街道や、三国街道や北国路などの脇街道が整備された。

### ★1 文政年間

文政（ぶんせい）は、日本の元号の一つ。文化の後、天保の前。1818年から1830年までの期間を指す。この時代の天皇は仁孝天皇。江戸幕府将軍は第11代の徳川家斉にあたる。江戸初期ではないため、武家地として発展を期した時期であり、また、今後の幕末に移り変わっていく時期を示したものである。

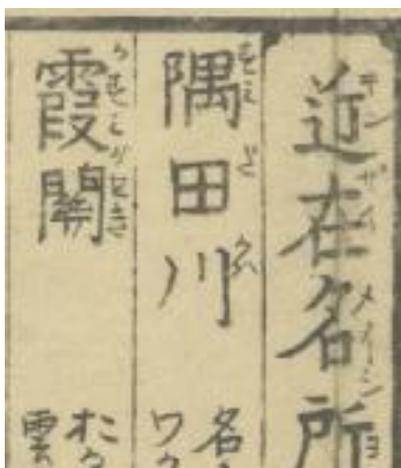
### ★2 御城

江戸時代においては江城という呼び名が一般的で、また千代田城とも呼ばれる。江戸城は麴町台地の東端に、扇谷上杉氏の家臣太田道灌が築いた平山城である。近世に徳川氏によって段階的に改修された結果、総構周囲約4里、日本最大の面積の城郭になった。徳川家康が江戸城に入城した後は徳川家の居城、江戸幕府の開幕後は幕府の政庁となる。

### ★3 御三家の屋敷

御三家は親藩（一門）のうちで最高位にあり、将軍家や御三卿とともに徳川姓を名乗ることや三つ葉葵の家紋使用が許された。元は、宗家の後嗣が絶えた時に備え、家康が宗家存続のために遺したものであるとも言われる。「将軍家に後嗣が絶えた時は、尾張家か紀州家から養子を出す」ことになっており、8代将軍吉宗から14代将軍家茂までは紀州家の血筋である。御三家同士、特に尾張家と紀州家の間には将軍職の継承を巡って競争意識があり、紀州家出身の吉宗に関しては尾張家当主の継友や宗春との間に確執があったとされている。なお、最後の15代将軍慶喜は水戸家出身ながら、御三卿の一橋徳川家への養子を経て将軍家を継承した。

また、家紋の向きがバラバラになっているのは、屋敷の正門がある方向からみて家紋の上側になるように設定されているためである。



### ★4 隅田川，霞が関

隅田川は、東京都北区の新岩淵水門で荒川から分岐し、新河岸川・石神井川・神田川・日本橋川などの支流河川を合わせ、東京湾に注ぐ全長 23.5km の一級河川である。古くは墨田川，角田川とも書いた。

霞が関は、東京都千代田区の地名。現在の麹町は旧麹町区にあたる麹町地域内である。麹町地域の南西側に位置し、港区（赤坂，虎ノ門，西新橋）との区境にあたる。日本の行政機関の庁舎が建ち並んでいることで知られる。

#### 【利用の例】

○ 江戸幕府の成立と支配のしくみを学習する際の資料として活用できる。

→ 参勤交代で江戸に滞在する一年間をどこで過ごすのか、その場所を理解したり、徳川の親藩や譜代大名が江戸に屋敷で広い面積であったりしたことを、視覚的に理解することができる。

→ 江戸城の御城を中心に、大名たちの屋敷が広がっている様子を、理解することができる。また、家紋もつき示してあるので、屋敷の広さが大名の力の大きさであることも理解することができる。

○ 都市の繁栄と元禄文化を学習する際の資料として活用できる。

→ 江戸の内部に流れる河川が直線ではないことや、大阪の河川と形状が違うことから商人地ではなく、武家地として栄えていたところであること、河川を利用した船での移動が大阪よりも適していないことを理解することができる。